

# ロープ結索訓練

ロープは結び方によってさまざまな活用方法があり、災害時には非常に有効な道具です。ここではその訓練方法について記載しています

## 1 ねらい

災害時に倒壊家屋から救出活動などで役立つロープワークです。ロープをうまく活用できる技術の取得は、災害時だけでなく日常生活でも役に立つ場合もあります。

## 2 必要スタッフ (参加人員30名程度の目安)

4～5人

## 3 必要なもの

ロープ (人数分)

## 4 内容紹介

ロープの結び方には、同じ太さのロープを結び合わせるのに適している結び方、太さや材質の異なったロープをつなぎ合わせる時に使う結び方、また、ロープを物体又は人体に結びつけることで、吊り上げ・吊り下げ・ロープを水平に張ったり、上からロープを垂らしたりすることができます。

### (1) 進め方

- ① ロープを参加者に配り、準備します。グループわけをする場合、指導者1人に対して10人以下になるように分かれます。
- ② ロープの取り扱いに関する説明を実施します。
  - ・ 命を守るロープを乱雑に扱ってはいけません。
  - ・ ふざけて首に巻いたり、振り回したりしてはいけません。(特に子ども)
- ③ ロープ結び法を順次紹介し、参加者に実際に体験してもらいます。
- ④ 可能であれば実際にどのように使うのか体験してみます。(鉄棒にぶら下げてブランコにするなど。)

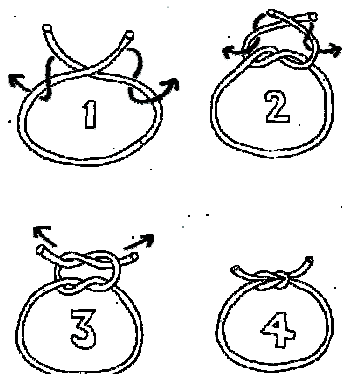
### ワンポイントアドバイス

☆通常消防職員が使用するレスキューロープは最大3トンの重さに耐えることができます。(結び目が増えたりすることで、強度は半減します。)

☆ロープが少しでも傷ついてしまうと、弱い部分から切断が始まるため、強度が半減します。命を守るロープですので、大切に扱うことを伝えましょう。

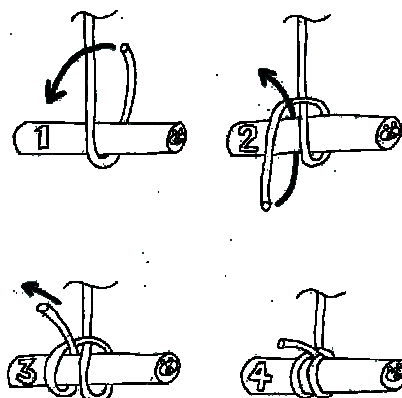
## 主なロープ結びの方法

### 本結び



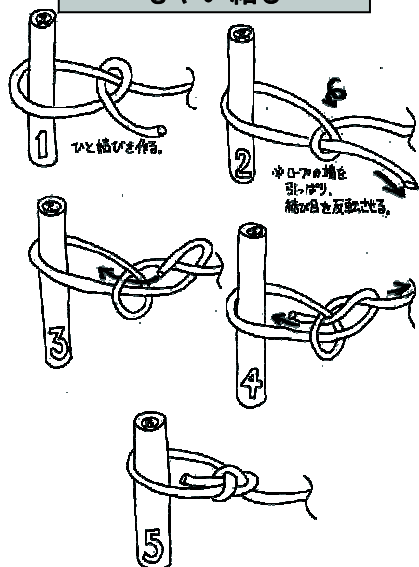
- ・同じ太さのロープをつなぐときに活用する方法。
- ・その一方、結び目の引っ張り方を変えると容易にほどくことができるので、救急隊の三角巾などでも使用されています。
- ・喋々結びはこの結び方の応用です。

### 巻き結び



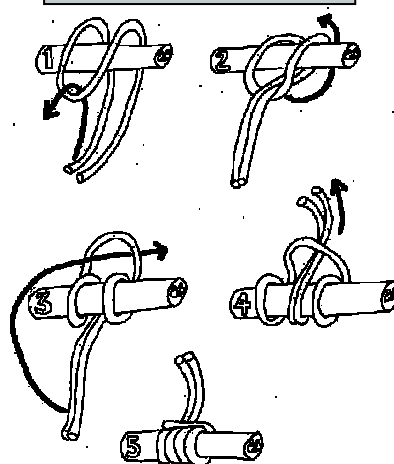
- ・素早く結べる固定用ロープの結び方。消防隊では、火災現場で放水に使うホースのずり落ち防止用として使用されています。
- ・あらゆるところにロープを固定する場合に活用できます。

### もやい結び



- ・輪を作る結び方。災害現場で自分の身を守る命綱などに使用される結び方です。
- ・木などの固定物にロープを結ぶときにも活用できます。

### プルージック結び



- ・素早く結べる固定用ロープの結び方です。
- ・巻きつり結びとよく似た状況で使われますが、あえて比較すれば、こちらの結び方の方が締まり過ぎにくく、デリケートなものを結ぶのに適しています。